

|                          |  |             |  |       |          |
|--------------------------|--|-------------|--|-------|----------|
| 科目区分・分類                  | 専共・講義  | 対象学科名・学年    | 両専攻 2年   | 科目コード | 88901901 |
| 科目名                      | 機能デザイン Function Design   |             |  |       |          |
| 担当教員                     | 楡井 雅巳, 中島 利郎, 古本 吉倫  |             |  |       |          |
| 単位数(時間数)                 | 必修 後期 2単位 (30時間)【学修単位】   | 学習・教育目標との対応 | (E-1)(E-2)(G-1)  |       |          |
| 授業の目的と概要                 | 目的: デザイン能力(製品開発の手順の基礎知識とその実践能力)の育成を目的とする。<br>またグループ活動を通じて, チームワーク力の涵養を行う。<br>概要: 与えられた課題に対して機能を発想し, 製品提案を行う。                   |             |  |       |          |
| 先修科目                     |  |             |  |       |          |
| 後修科目                     |  |             |  |       |          |
| 備考                       | 本授業はインターンシップの経験をした後の専攻科2年の後期に実施する。   |             |  |       |          |
|                          | 授業項目   | 時間          | 内容   |       |          |
| 1                        | 課題の提示と, 当該課題に対する先行技術調査の方法  | 2           | 提示された課題について先行技術を調査でき, 調査方法を体得できる。                                  |       |          |
| 2                        | デザインレビューの概要および FDR   | 2           | デザインレビューの概要とFDRの実施方法を理解でき事例をもとに説明できる。                              |       |          |
| 3                        | コストを含む市場ニーズの調査と商品企画  | 2           | “良い商品”を企画するための実践的な方法を理解できる。  |       |          |
| 4                        | コストを含む市場ニーズの調査と商品企画  | 2           | “良い商品”を企画するための実践的な方法を理解できる。  |       |          |
| 5                        | 各学生個人での検討  | 2           | 課題に対する解決案を各自で提案できる(レポートB提出)。                                       |       |          |
| 6                        | グループ討論   | 18          | 解決策をグループメンバーと協働して創出し, それらを具体的に斜視図, フローチャート等の図に示し文章で説明できる(レポートA提出)。 |       |          |
| 7                        | 発表会  | 2           | 解決策を他グループに説明できる。また他グループの発表内容を理解できその発表内容の問題点を指摘できる。                 |       |          |
| 学習・教育目標を達成するために身に付けるべき内容 | (E-1): 特許調査などを行いその調査結果を活用できる(レポートB)<br>(E-2): デザインレビューの基礎知識を実際に課題に対して適用できる(レポートA)。<br>(G-1): 課題解決に向けて他者と協働して取り組むことができる(レポートA)。 |             |  |       |          |
| 成績評価                     | 各個人が所属するグループとして提出のレポートAおよび, 各個人が提出するレポートBにより評価する。成績はレポートA, レポートBの学習教育目標のそれぞれ6割以上を合格とする。  |             |  |       |          |
| 教材                       | 参考書: 小野寺勝重著 実践デザインレビュー 日科技連出版社   |             |  |       |          |
| オフィスアワー                  | 授業当日の16時15分~17時15分 各担当教員室  |             |  |       |          |